



「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されています。スマホで読み取ったり、パソコンで検索して、カラー写真付きの記事をご覧ください。

### ～5年振りに「小原國芳先生『勉学の道』歩こう会」を開催～ 桜山地区公民館

桜山小の児童、保護者など35人が参加しました。平成21年に始まり、何回か中止もありましたが、今年で10回目の開催になります。今回は小原國芳先生の教え子の方も参加していただき、節目の開催に花を添えてくださいました。

「勉学の道」は、東京にある玉川学園の創立者である故小原國芳先生が12歳のとき、実家（現在の南さつま市坊津町久志）から桜山尋常高等小学校（現在の桜山小学校）まで通学した片道12キロの険しい山道です。小原少年は朝の暗いうちに提灯に明かりをともし、家を出て、石ころだらけの山道を一度も始業に遅れることなく桜山小学校まで通ったそうです。

歩こう会参加者は、久志から出発し、小原國芳先生顕彰の碑が建っている桜山小学校まで3時間ほどかけて歩き、小原先生の学問への情熱と不屈の精神を身をもって感じ取っていたようです。



「勉学の道」を元気に歩き通した参加者たち

別府小学校では、1月26日に1年生が校区老人クラブ・高齢者学級の方々と「昔遊び」のふれあい活動を行いました。今回は、子供たちの祖父母を含め、30名近い高齢者の方々に参加いただきました。



「けん玉」で、おじいちゃんたちと楽しく遊ぶ

### ～1年生が高齢者と「昔遊び」でふれあい活動～ 別府小学校

子供たちは、グループに分かれ、「コマ回し」や「いろはかるた」「めんこ」など9種類の昔の遊びを体験し、おじいちゃん、おばあちゃんとの交流を心から楽しんでいました。

別府地区公民館の青少年講座も兼ねており、高齢者の方々も童心に帰って子供たちと一緒に全部の遊びを体験し、1年生との触れ合いに笑顔がこぼれていました。

その後は、全員で折り紙の紙飛行機を作って、誰が一番遠くに飛ばせるか紙飛行機競争をして、こちらも大変盛り上がりしました。

最後に、子供たちがお礼の気持ちを込めて「ゆめKIBAIYANSE（きばいやんせ）」のダンスを披露しました。和やかな雰囲気の中、たくさんの笑顔がはじける交流活動になりました。

### ～学校給食週間に生産者を招いて食育の交流授業～ 市内小学校

枕崎市内の小学校では、1月24日から「全国学校給食週間」に合わせ、給食センター栄養教諭の椎葉先生と地元の食材を生産する方々を招いて交流授業が行われました。

#### 別府小学校

別府小学校では1月24日に枕崎牛生産者の山下さんと宮路さんをお迎えして、全校児童で給食感謝会を行いました。はじめに、各学年の代表児童が感謝の手紙を発表しました。どの手紙も給食に携わってくださる方々への感謝の気持ちが伝わってくる内容で、出席の方々も感激の面持ちでした。そのあと、椎葉先生から給食について詳しく話していただき、宮路さんと山下さんからは、給食で提供される枕崎牛について説明していただきました。子供たちもうなずきながら話を聞いて、給食についてたくさん学ぶことができました。



感謝の手紙を読む児童代表

#### 立神小学校

立神小学校では、1月29日に2年生を対象に学校給食の野菜を生産されている原田さんにお越しいただいて、食育教室を実施しました。まずは「箱の中身は何？ゲーム」を行い、箱の中の野菜を感触だけで当てるゲームで盛り上がりしました。最後には、持参いただいた野菜を触ったり、匂いをかいだり子供たちの野菜への興味が高まりました。



持参した野菜の説明をする原田さん

この日の給食にも、原田さんが生産した白菜が使われていると聞き、給食を楽しみにしていましたが、ほとんどの子供が給食を完食していました。

#### 桜山小学校

桜山小学校では、1月25日に4年生が鯉節生産者（水産加工組合）の高倉さんに来ていただき、1月31日には3年生が枕崎牛の生産者のJAの有留さん、大堀牧場の宮路さん、カゴファームの中村さんを招いて話を聞きました。

高倉さんからは「鯉節を作るには多くの手間と時間がかかっている。鯉の切り身から一本一本骨を抜いたり、燻して、カビ付けと天日乾燥を6カ月以上繰り返して本枯節が出来上がる。」との話がありました。

枕崎市では地元の食材を知ってほしいとの思いを込めて、毎月24日の「節（ふし）の日」に「ふしの日給食」を実施しており、枕崎水産加工組合から毎月7キロの削り節（本枯節）が無償提供され、本枯節を使った様々な料理を作っています。



枕崎牛生産者の方と椎葉先生

枕崎牛の生産者の方からは「枕崎牛は福岡県に出荷して、命をいただいて牛肉にして、全国に供給している。毎日休まずに牛の世話をし、成長に合わせて餌を変えたり、牛肉がおいしくなるようにいろいろな工夫をしている。」との話がありました。

椎葉先生からは、「枕崎牛を育てている方、鯉節や野菜を作っている方、給食センターの調理員、運転手も含めて多くの方がかわって学校に給食を届けている。みんなも作ってくれた人に感謝して給食を残さずに食べてほしい。」と子供たちに呼びかけていました。



本枯節について説明する高倉さん